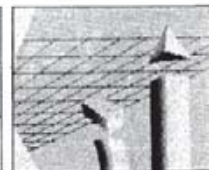


モノグラフ・高校生'91

vol.31 高校生の地域感覚



静岡大学教授 深谷昌志

目次

要約とまとめ	2
第I章 テーマ設定とサンプル構成	4
1. テーマ設定	4
2. サンプルの構成	5
第II章 どこで暮らしたいのか	9
1. 現在住んでいる所	9
2. 進学する先	11
3. 将来の生活	13
4. 東京都内か京阪か	15
5. 都会か自然か	19
第III章 地域への愛着度	22
1. 地域の魅力	22
2. 地域のイメージ	26
3. 地域への愛着	29
4. 大学のイメージ	33
5. 行ってみたい都市	36
第IV章 東京へのあこがれ	41
1. 東京のイメージ	41
2. 東京に住んでみたいのは	44
3. 東京での生活の意味	46
資料1 調査票見本	49
資料2 基礎集計表	65

※おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとは一切関係ありません。

要約とまとめ



① 今後も住みたいか

現住所に今後も住みたいと思う割合は38.4%で、その割合のもっとも高いのが東京で、54.3%、それに対して徳島は「住みたい」が23.1%にとどまっている (p.11 図7・8)。

② どの大学へ進みたいか

地域によってことなるが、地元の大学を生徒が受験する割合は、東京が81.3%、それに対し、静岡は21.4%となる (p.13 表7)。

③ 将来の生活

大学時代は東京 (28.1%) や京阪 (23.0%) へ行きたい者が51.1%と過半数を超える。しかし、子育ての時期に東京や京阪での生活を望む者は9.4%で、47.3%と半数近くが地方都市がよいと思っている (p.15 表9)。

④ 東京で暮らす

大学時代は東京で暮らしたいが、子育てのときは地方都市で暮らしたいという (p.18 図10)。

⑤ 都会か自然か

大学は、都会的な所へ行きたいが、就職先や家庭は、地元か自然の多い所がいい (p.19 表15・p.20 図11)。

⑥ 地域のイメージ

地域によってイメージがことなるが、岡山=歴史の町、富山・徳島=自然に恵まれている、静岡=住み心地がよい、東京=刺激に富む、などのイメージがもたれている (p.28 表17)。

⑦ 大学のイメージ

大都市の大学のイメージは難易度が高く、バイトがしやすいのに対して、大都市以外の大学は、家庭的で雰囲気が良いという (p.33 図20・p.34 図21)。

⑧ 東京のイメージ

一晩中楽しめる所が多いが、一生生活する所でないし、落ち着きのない街だと思う (p.42 図26)。

⑨ 東京に住んでみたいのは

大学時代に東京で暮らしたいが、5割を超える。しかし、子育てのとき、東京暮らしをしたいのは11.8%にとどまる (p.44 図27)。

まとめ

生徒たちは、大学時代は東京を中心とした大都市で生活したいと思っている。しかし、大学を終わったら地元へ戻って、人間的な暮らしをしたいと考えている生徒が多い。こうしたデータをふまえると若者たちのUターン現象は決して一時的な傾向でなく、かなり深く若者たちの心をとらえているのがわかる。

〔付記〕

今回の調査は、武内清教授や明石要一助教授らの指導のもとに、モノグラフ同人会全員で調査票を作成する形をとった。しかし集計からレポート作成までの時間がとれなかったため、深谷が執筆する結果となったことを付記しておきたい。

〔調査概要〕

対象●東京・静岡・富山・岡山・徳島の高校3年生

時期●1990年9月

方法●学校通しによる質問紙調査

サンプル構成 (人)

地域	学校数	男子	女子	計
東京	1	72	56	128
静岡	3	648	388	1,036
富山	2	192	137	329
岡山	2	328	325	653
徳島	2	209	183	392
計	10	1,449	1,089	2,538

第 I 章 テーマ設定とサンプル構成



1. テーマ設定

講演などで地方を訪れると、かなりの人材に接する機会が多い。正直にいうと、東京なら、もっとビッグな仕事をしているはずなのに、力量にしては、スモールな仕事で毎日を送っているような気持ちがある。

そういう人たちに共通しているのは、大学時代に東京に遊学し、その後、家業を継ぐために郷里に戻り、そして、家庭をかまえた。それから20年ほど時間がたち、仕事も順調に進み、地元での信頼もあつい。ロータリーやライオンズクラブのメンバーとなって、地元を支えている。そうした人たちを見ていると、あくせくすることなしに、マイペースで人生設計をすることの確かさを感じ、大都市の生

活などは根無し草のように思われてくる。

そうした人たちと話していると、若いころの東京での生活が、その人にとってのかけがえない青春であることがわかる。東京で、地元では味わえない大きな経験を積むことができ、その体験が現在の自分をつくった。それだけに、現在でも年に何回か東京を訪ね、リフレッシュする機会を得るという。

人生にはそれぞれの生き方があり、すべての人がそうした充足した人生を送れるものではないが、こうした人たちの話を聞くにつけ、東京（あるいは京都、そして、大阪）遊学が現在でも意味をもってくるのがわかる。

高校生は、人生のスタート台に立つ人たち

であり、彼らには明るい未来が開けている。そうしたときに、高校生はどのような人生設計を考えているのか。とくに、地域移動に関連させて、彼らの人生設計を考えてみたいと思った。

どこの地域の大学進学を望み、そして、どこで家庭を築き、子育てをしようとしているのか。換言するなら、自分の住んでいる地域を生徒たちはどう感じているのか、将来設計をたずねることにした。

2. サンプルの構成

このモノグラフでは、高校生たちの地域意識を考察しようとしている。地域意識を問題にするので、これからの分析では、地域性を軸として検討を進めるが、その前に、サンプルの全体の傾向をまとめておこう。

まず、学校までの通学時間は図1のように、30分以内が62.9%とほぼ3分の2に達する。もちろん、そのほとんどが自転車通学をしている(図2)。地方都市へ出かけると、朝、自転車通学をする生徒の姿を見かける。いかに

図1 通学時間

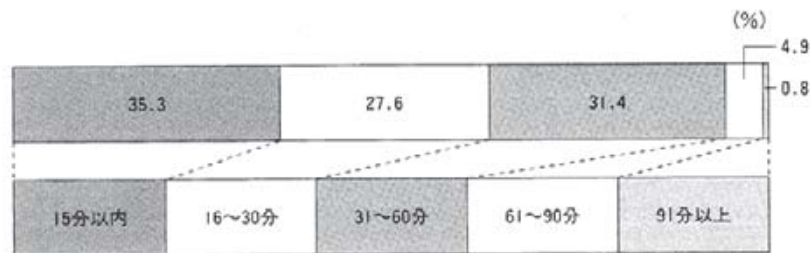
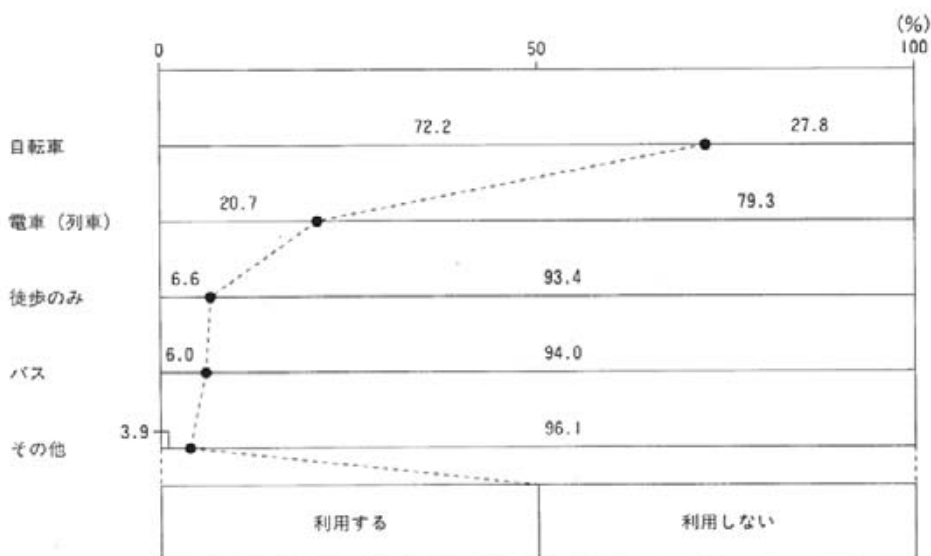


図2 交通手段



も高校生らしい通学風景だが、自転車は高校生にとっての必需品なのであろう。

なお、生徒たちにとっての地域を考えるにあたって、地域移動が問題となるが、表1のように、小学校時代に転校した経験のある者は18.0%に達する。もっとも、7割以上は転校が1回程度にとどまっているが(図3)、中学時代に転校した者は5.2%となっている

(表2・図4)。

小学校時代に転校 18.0%
 中学校時代に転校 5.2%

小・中のいずれかに
 転校 21.4%
 (小・中ともに転校が 1.8%)

したがって、転校したことのない生徒は、

表1 小学校転校の有無

		(%)
転 校	あ る	18.0
	な い	82.0

図3 小学校の転校回数

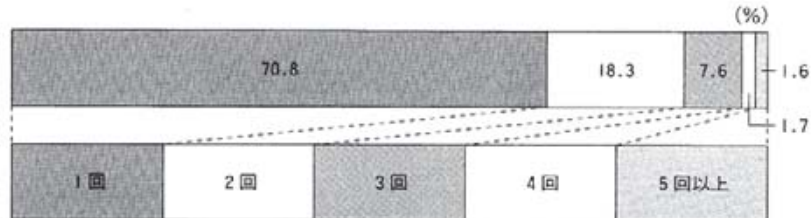


表2 中学校転校の有無

		(%)
転 校	あ る	5.2
	な い	94.8

ほぼ8割となる。なお小・中学校時代をあわせて、5回以上転校した者が2.1%を占める。それぞれに家庭の事情があつての転校なのだと思うが、5回も転校していたのでは、のんびりと学校生活を送れないだろうと思う。

なお、今回の調査に協力してくれた高校生の学業成績は図5のとおりとなる。高校の場合、

高校のランクによって成績がことなるので、図5がそれほど意味があるとは思えないが、念のために提示しておく。

また、生徒たちの自己評価を図6に示した。「心がやさしくてマジメだが、異性に人気があるとはいえないし、勉強が得意とも思えない」が、高校生たちの平均的な自己像となる。

図4 中学校の転校回数

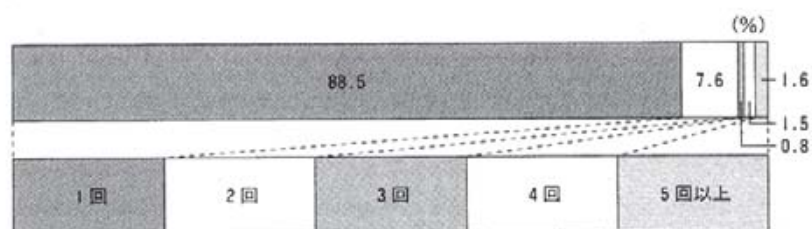


図5 学校の成績

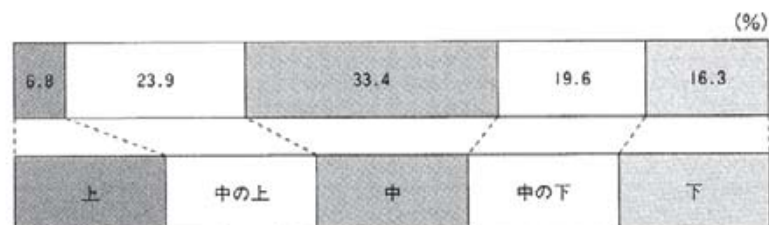
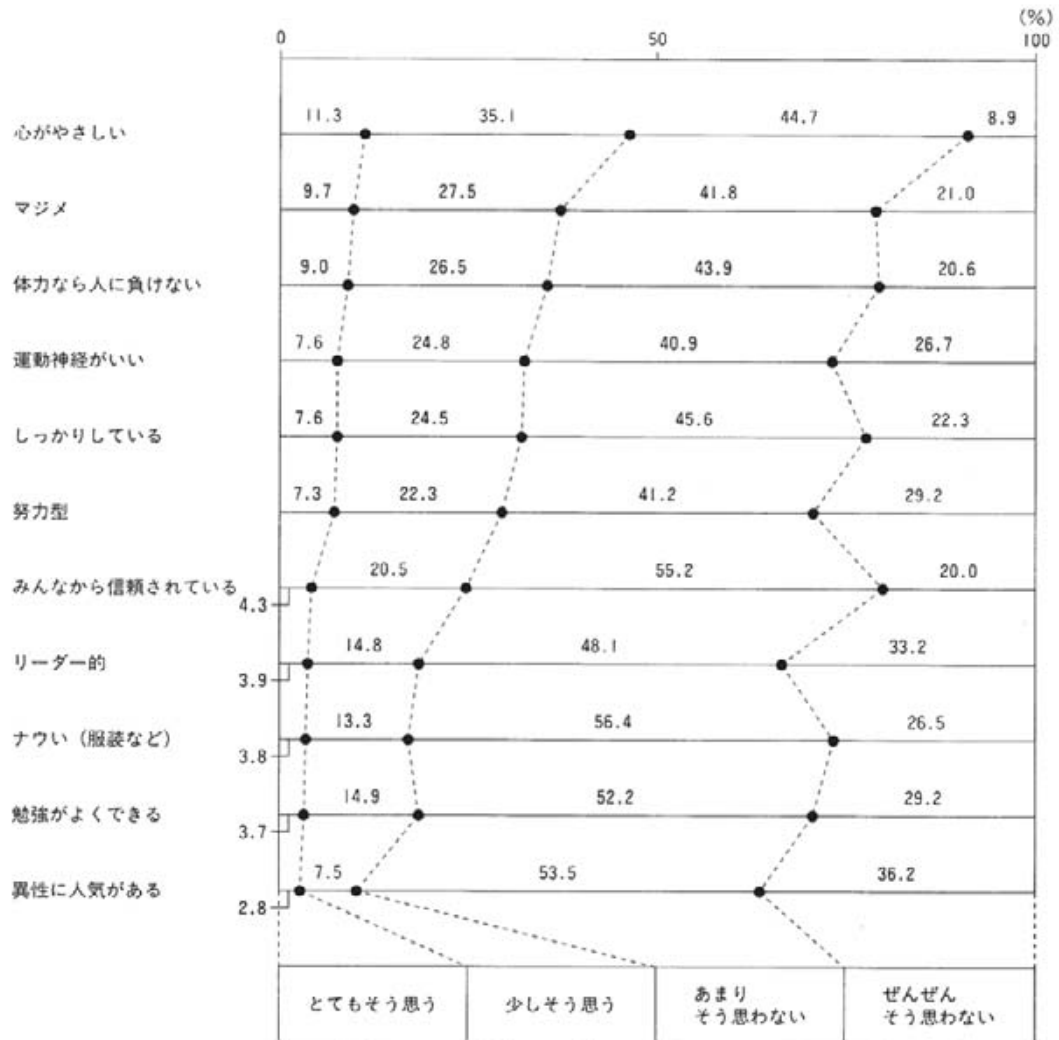


図6 自分のこと



第Ⅱ章 どこで暮らしたいのか



1. 現在住んでいる所

生徒たちは高校を卒業してから、大学進学、そして就職、さらに結婚して家庭をつくるなどの人生設計にあたって、地域をどう考えているのであろうか。

このところ、若者のUターン現象が目につくといわれるが、本当に、若者たちは大学に行くのは大都市であっても、大学が終わったら地元へ戻ってこようと思っているのであろうか。

まず、生徒たちの現在の居住地は表3のとおりである。すでにふれた転校の少なさが示すように、「生まれてからずっと」現住所にいる生徒が53.3%、これに「小学校に入る前後」からの32.9%を含めると、86.2%と9割近い生徒が、少なくとも小学校のころから現在の

所に居住していた感じになる(表4)。

そして、今後も現在の所に住みたいかについて、図7のとおり、「とても」の9.9%に、「かなり」の28.5%を含めて、38.4%が「今後も住みたい」と思っている。ということは、換言するなら、残りの61.6%の生徒は、現在の所に住みたくないと答えていることになる。

高校生のころは、未来に夢を抱ける時期で、それだけに、東京や大阪などの大都市での生活にあこがれを抱くことが多いのではないか。図8によると、今後も住みたい割合の高い地域は、東京、岡山、静岡の順で、徳島がもっとも住みたいという気持ちが少ない、換言するなら、転出する希望の多いのが徳島となる。

表3 居住地

(%)

1	静かな住宅地	32.9
2	郊外の自然が残っている地域	28.6
3	住宅地と商店街のまざった地域	10.7
4	団地などの多い地域	9.2
5	山村や漁村	7.8
6	商店の多い地域	5.4
7	工場の多い地域	1.5
8	その他	3.9

表4 いつからの居住か

(%)

1	生まれた時から	53.3
2	小学校に入る前から	18.3
3	小学校に入ってから	14.6
4	中学校に入ってから	8.3
5	高校に入ってから	4.8
6	今の学年になってから	0.7

図7 今後も住みたい

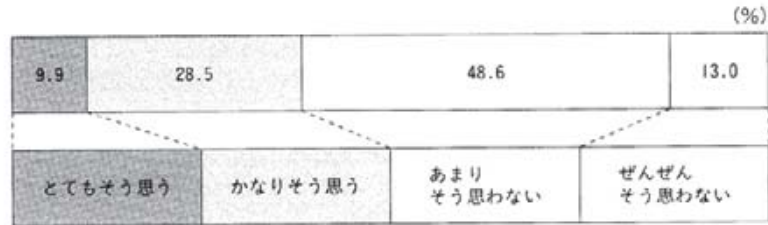
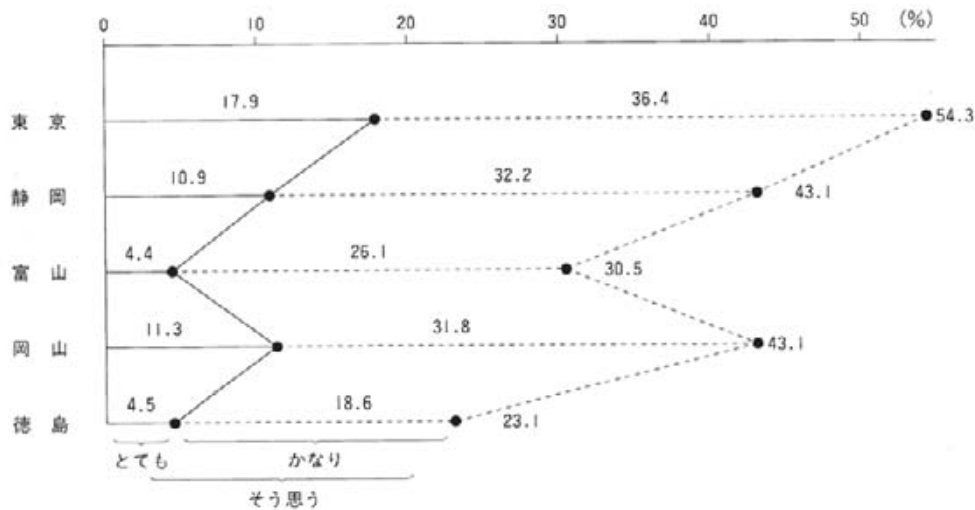


図8 今後も住みたい×地域



2. 進学する先

今回の調査に協力してくれた高校は、いわゆるランクのかなり高い学校なので、卒業後の進路は表5のように、「むずかしい大学」の37.9%を含めて、ふつう以上の大学を目指す生徒が79.4%と、8割に迫っている。

それでは、そうした生徒はどの地域の大学を目指すのか。全体としての志望大学の所在地は表6のとおりだが、地域別にこれを集計し直してみると、表7のような結果となる。

調査地のうち、東京を除く4地域は、それぞれに地元国立大学などがあるというもの

の、帝国大学の流れをくむ、いわゆる難関の大学へ進もうとすると、地元を離れねばならない。そこで表7から、仮に地元定着率を拾い出すと、以下のようなになる。

東京 岡山 徳島 富山 静岡
81.3 37.6 31.0 26.3 21.4(%)

そして、実際の進学のための移動は、東日本は東京、西日本は大阪や京都などの近畿、さらに名古屋といった各地方の中心地を視野に入れて選択しているように見える。

表5 卒業後の進路

	(%)
むずかしい大学	37.9
ふつうくらいの大学	41.5
やさしい大学	5.8
むずかしい短期大学	1.6
ふつうくらいの短期大学	6.1
専修学校や専門学校	2.8
就 職	4.3

表6 志望大学所在都道府県

	(%)
北海道・東北	3.2
関東（東京を除く）	9.8
東 京	25.2
北陸・中部	22.4
近 畿	19.4
中 国	12.7
四 国	6.1
九州・沖縄	1.2

表7 志望大学所在都道府県×地域

(%)

	東京	静岡	富山	岡山	徳島
北海道・東北	0.6	9.4	9.8	1.2	0.0
関東(東京を除く)	15.7	21.4	8.2	2.7	4.8
東京	81.3	29.9	36.1	13.1	10.1
北陸・中部	1.2	25.8	26.3	5.2	6.5
近畿	1.2	11.1	18.6	35.2	39.9
中国	0.0	1.5	0.5	37.6	6.5
四国	0.0	0.0	0.0	3.0	31.0
九州・沖縄	0.0	0.9	0.5	2.0	1.2

○は最大値 ○は第2位

3. 将来の生活

それでは、大学を卒業後、生徒たちはどう
いう人生を送ろうとしているのか、全体とし
ての傾向は図9のとおりだが、「しあわせな家
庭をつくれる」や「つきたい仕事につける」な
どについて、「きっと」や「たぶん」とまでは
いえませんが、「もしかしたらそうなれる」くら
いならそう思えるという。

そして、そうした将来への見通しを地域と
クロスさせてみると、表8のように、「将来き
つとなれる」と思う割合の高いのが、東京、
それに反し見通しの低い地域が富山や徳島な
どとなる。

これまで、地域移動をブロックに分けて考
察してきた。しかし、もう少し具体的に地名
をあげて検討してみると、表9のとおりとな

る。

	東京都内	+	京都・大阪	=	計(%)
予備校	25.4		13.6		39.0
大学	28.1		23.0		51.1
就職	20.3		12.8		33.1
子育て	5.2		4.2		9.4
定年後	2.9		2.8		5.7

したがって、高校生たちは、大学までは東
京か京阪で学びたい、しかし、子育てをし
たりして永住し、老後の生活を送る場は地
方都市のほうがいいという。そして、そ
うした地方都市のよさを認めている生徒
が半数に迫っている。

図9 将来の生活

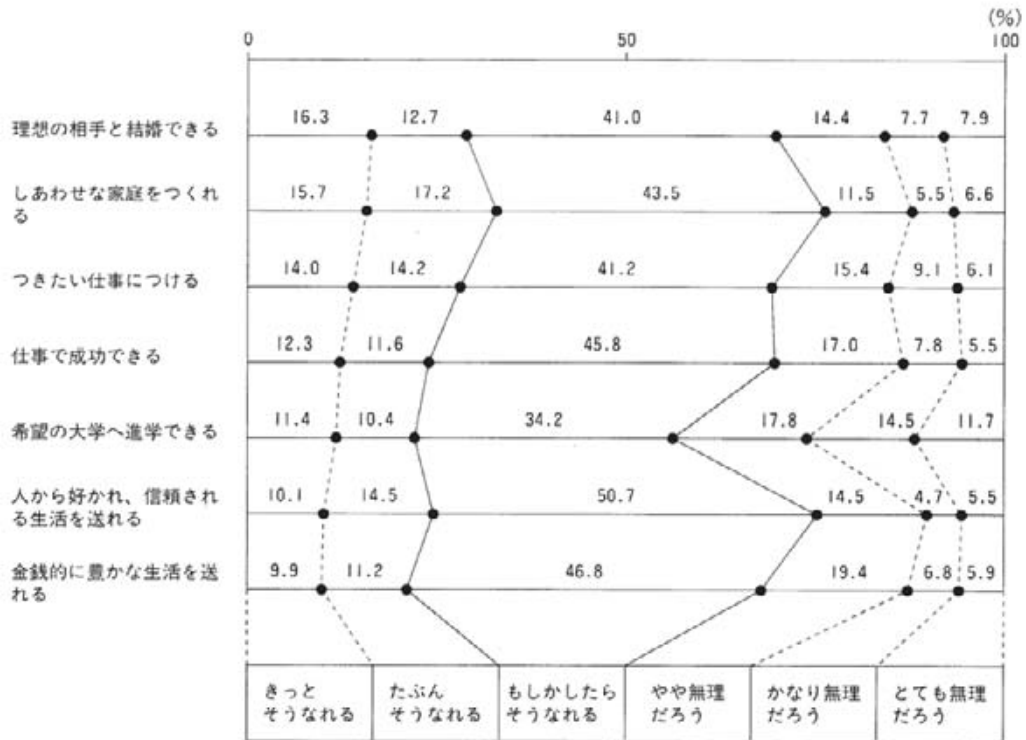


表8 将来の生活×地域

	東京	静岡	富山	岡山	徳島
希望の大学へ進学できる	20.3	27.8	25.4	20.2	25.1
理想の相手と結婚できる	31.8	24.7	29.4	29.1	27.8
しあわせな家庭をつくれる	37.9	36.5	25.9	33.6	35.2
つきたい仕事につける	26.2	31.3	27.0	26.3	28.4
金銭的に豊かな生活を送れる	26.8	22.9	19.1	18.1	17.6
仕事で成功できる	27.4	26.6	25.0	23.7	21.1
人から好かれ、信頼される生活を送れる	31.8	23.1	21.2	24.5	22.2

「きっと+たぶんそうなる」割合
 ○ は最大値 — は最小値

表9 いちばんよい地域

	東京都内	大阪や京都	その他の大都市	地方都市	山村や漁村	どこでもよい
予備校	25.4	13.6	9.7	22.2	1.0	28.1
大学	28.1	23.0	16.5	18.7	0.5	13.2
就職	20.3	12.8	13.9	31.2	1.1	20.7
彼(彼女)	7.8	6.3	5.3	21.4	1.8	57.4
結婚相手	5.5	4.8	5.2	24.2	2.0	58.3
子育て	5.2	4.2	6.7	47.3	9.9	26.7
両親の住む所	3.5	1.5	1.5	49.5	14.1	29.9
定年後住む所	2.9	2.8	3.0	47.7	17.9	25.7
自分の墓	3.0	1.3	1.6	38.7	17.0	38.4

○は最大値

4. 東京都内か京阪か

そこで、以下、年齢を追った形で、生徒たちがどこに住みたいのかを調べてみることにしよう。もちろん一般的に移動といっても意味が少ないので、それぞれの地域に着目してみよう。

まず予備校については、表10となる。

東京・静岡 → 東京へ
 徳島 → 京阪へ
 岡山 → 岡山へ
 富山 → どこでもよい

それでは、大学の場合はどうか。表11のように、さすがに東京都内、あるいは京阪を望む者が、以下のように、5割あるいはそれ以上に達する。

	東京都内	京都・大阪	計 (%)
東京	84.9	+ 3.2	= 88.1
静岡	38.2	+ 10.7	= 48.9
富山	38.2	+ 16.7	= 54.9
岡山	15.9	+ 38.2	= 54.1
徳島	11.3	+ 49.1	= 60.4

大づかみにして、東日本は東京を中心に、そして西日本は京阪を中心に、大学進学を考えているのがわかる。

それでは、大学を卒業した後、どこでの生活を望んでいるのか。就職先については表12のように、地方の生徒は、大学を卒業したら地元というのか、地方都市での生活を望む生徒が増加している。

静岡	大学	東京都内 38.2	地方都市(静岡) 14.3	(%)
	就職	25.6	27.3	
徳島	大学	京都・大阪 49.1	地方都市(徳島) 19.2	
	就職	31.3	32.3	

なると、地元を選ぶ傾向が認められる。そうした意味では、若者のUターン現象は、マスコミの作りだした虚構でなく、実態をふまえた動向であることがわかる。

それならば、家庭をつくって子育てをする場をどこにしたらよいか。「子育て」の場として、地方都市の割合が高いのは表13のとおりで、そうした傾向は、表14の「定年後に住む所」についてもあてはまるように見える。

したがって、多くの生徒たちは勉学の場として東京都内や京阪を考えているが、就職と

表10 予備校×地域

(%)

	東京都内	大阪や京都	その他の大都市	地方都市	山村や漁村	どこでもよい
東京	92.7	0.6	0.0	0.6	0.0	6.1
静岡	41.0	4.3	16.0	14.2	1.7	22.8
富山	33.7	7.9	6.4	14.9	0.0	37.1
岡山	4.5	14.1	6.0	39.1	1.9	34.4
徳島	8.0	51.2	6.3	17.8	0.6	16.1

○は最大値

表11 大学×地域

(%)

	東京都内	大阪や京都	その他の大都市	地方都市	山村や漁村	どこでもよい
東京	84.9	3.2	4.3	3.8	0.0	3.8
静岡	38.2	10.7	24.4	14.3	0.3	12.1
富山	38.2	16.7	18.1	10.8	0.5	15.7
岡山	15.9	38.2	12.9	18.5	0.9	13.6
徳島	11.3	49.1	11.9	19.2	0.6	7.9

○は最大値

そこで、大学から就職、そして子育て、定年を追う形で、地方都市で暮らす割合をまとめてみよう。

地方都市で暮らす	大学 就職 子育て 定年後 (%)			
	徳島	19.2	<32.3	<46.4
岡山	18.5	<28.6	<50.9	=52.6
静岡	14.3	<27.3	<50.9	=48.7
富山	10.8	<23.6	<50.5	<54.4
東京	3.8	<4.3	<16.5	<30.2

このように、東京の生徒たちにしても、若いころはともかく、将来は地方都市での暮らしを望んでいるほどで、その他の都市の生徒はなおのこと、地方で暮らしたいと答える割合が多い。そして、そうした傾向は、図10の東京で暮らしたいかについてもあらわれている。

表12 就職×地域

	(%)					
	東京都内	大阪や京都	その他の大都市	地方都市	山村や漁村	どこでもよい
東京	77.9	1.6	4.9	4.3	1.6	9.7
静岡	25.6	4.8	19.2	27.3	0.8	22.3
富山	25.6	5.9	12.3	23.6	0.0	32.6
岡山	13.5	23.5	10.7	28.6	1.7	22.0
徳島	9.1	31.3	14.2	32.3	0.0	13.1

○は最大値

表13 子育て×地域

	(%)					
	東京都内	大阪や京都	その他の大都市	地方都市	山村や漁村	どこでもよい
東京	42.4	1.6	4.9	16.5	11.5	23.1
静岡	2.8	1.1	10.5	50.9	7.9	26.8
富山	2.9	2.9	5.9	50.5	5.4	32.4
岡山	1.6	7.5	6.6	50.9	8.0	25.4
徳島	0.6	8.5	7.3	46.4	20.3	16.9

○は最大値

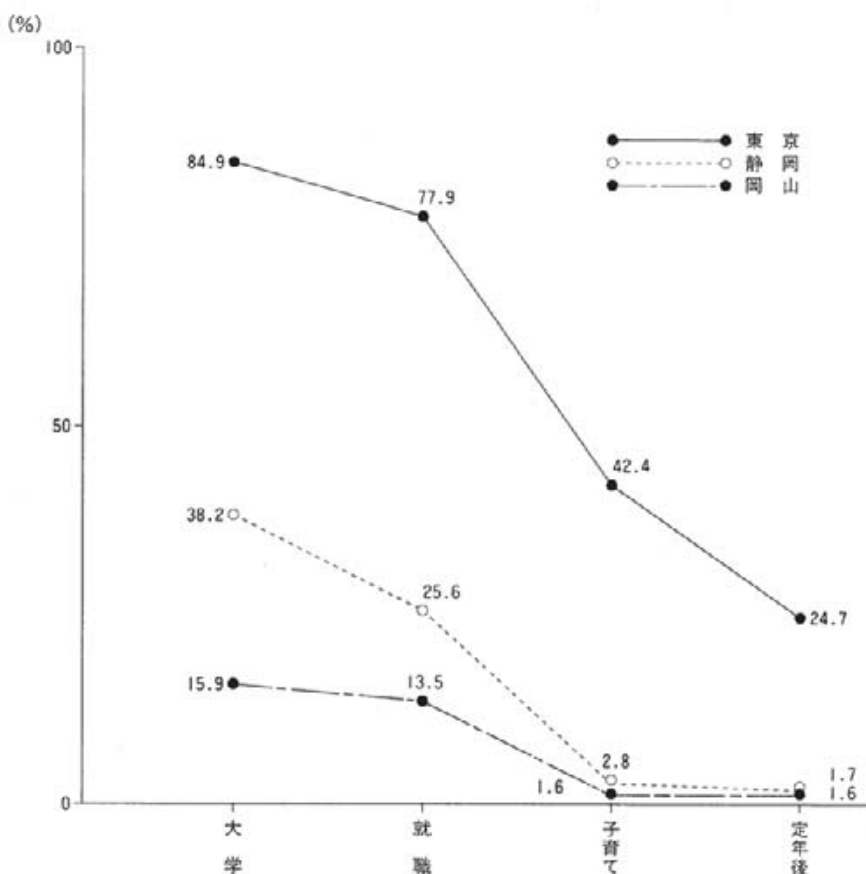
表14 定年後住む所×地域

(%)

	東京都内	大阪や京都	その他の大都市	地方都市	山村や漁村	どこでもよい
東京	24.7	3.3	3.3	30.2	13.2	25.3
静岡	1.7	2.9	1.2	48.7	22.6	22.9
富山	0.5	2.0	3.4	54.4	11.8	27.9
岡山	1.6	4.0	1.6	52.6	14.8	25.4
徳島	0.6	4.0	4.5	38.4	33.3	19.2

○は最大値

図10 東京で暮らす×地域



5. 都会か自然か

このように生徒たちは、思っている以上に地方での暮らしを望んでいる。そこでもう少し、そうした状況をシャープにとらえたいと思ひ、今より都会的な所と、自然の多い所と、どちらのほうに暮らしたいのかをたずねてみた。

結果は表15のとおりで、大学は「今より都会的な所」へ行きたいが、子育てのときや定年後に暮らす所は「今住んでいる所の近く」か、「今より自然の多い所」がいいというのが、生徒たちの反応である。図11のプロフィ

ールからも、年齢が上がるにつれて、都会派が減少する反面、自然派が増加し、両者が交差しているのがわかる。

そして、表16のように、東京の高校生でも、年をとったら都会よりも自然のほうが良いと答えている。

そうした意味では、生徒たちは、大学のころは東京の生活のほうがよく、しかし東京の生徒も含めて、自分の家庭をもつようになったら、自然のある暮らしを望んでいる。これは予想外の結果であった。

表15 都会か自然か

(%)

	今より都会的な所	今住んでいる所の近く	今より自然の多い所
大 学	70.8	21.8	7.4
予備校	54.2	41.5	4.3
就 職	64.8	28.8	6.4
彼（彼女）	40.8	45.2	14.0
結婚相手	40.4	42.0	17.6
子育て	25.0	37.9	37.1
両親の住む所	7.7	51.7	40.6
自分の墓	7.3	49.0	43.7
定年後住む所	12.4	40.1	47.5

○は最大値

図11 都会か自然か

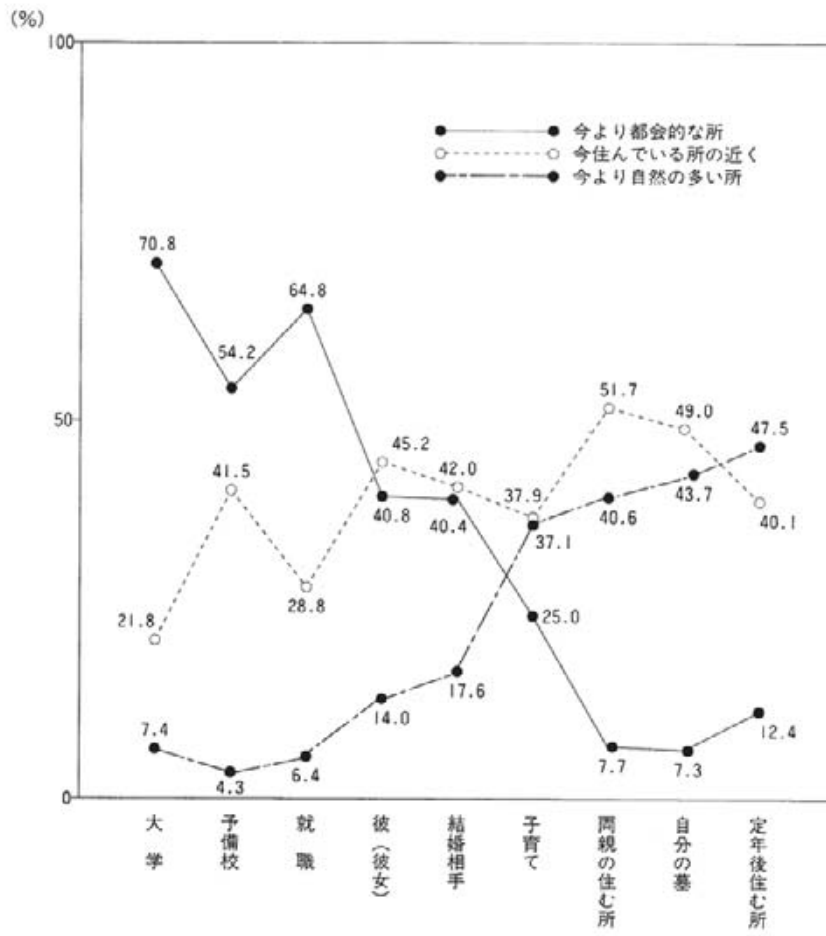


表16 都会か自然か×地域

(%)

		今より都会的な所	今住んでいる所の近く	今より自然の多い所
大 学	東 京	21.0	76.8	2.2
	静 岡	69.0	26.4	4.6
	富 山	60.2	36.8	3.0
	岡 山	68.4	26.4	5.2
	徳 島	73.6	21.8	4.6
就 職	東 京	40.3	46.1	13.6
	静 岡	68.8	23.7	7.5
	富 山	72.4	21.7	5.9
	岡 山	62.0	31.6	6.4
	徳 島	74.8	20.6	4.6
子 育 て	東 京	10.6	29.4	60.0
	静 岡	23.4	34.4	42.2
	富 山	23.6	46.2	30.2
	岡 山	21.6	39.9	38.5
	徳 島	30.7	30.1	39.2
定 年 後	東 京	5.5	24.2	70.3
	静 岡	11.8	33.5	54.7
	富 山	12.6	50.2	37.2
	岡 山	10.5	39.7	49.8
	徳 島	15.5	35.1	49.4

○は最大値

第三章 地域への愛着度



1. 地域の魅力

これまでふれてきたように、高校生たちは大学時代はともかく、子育てをするのは自然の多い地元で、という声が圧倒的であった。

それならば、自然のある暮らしに関して生徒たちは、現在住んでいる地域をどう感じているのであろうか。

その前に、地元でどの程度の物を買っているのかをたずねると、図12のような結果となる。文房具やビデオ、CDなど、生徒の求めそうなものの大半は、地元か、せいぜい自転車に乗って15分くらいの所で求めているという。

こうしたデータを見ると、生徒たちが、思っている以上に地域で暮らしている感じがして

くるが、地域が生徒たちにとって、どれくらいかわりがあるかをたずねると、図13のようなプロフィールが得られる。行ってみたい映画館や入りたかった高校、そして就職したい企業が地域に多いというのは、せいぜい2割前後で、あまりそういうところはないとの反応がほとんどの項目で8割を超える。全体として、居住している地域に限定してしまうと、地域でさまざまな活動をするには、それほどの魅力に乏しいというのであろう。

なお、図14に地域の魅力を地域別に集計した結果を示したが、東京、岡山、静岡の中では、ほとんどの項目で静岡の生徒の評価が高い。それに対し、東京の生徒たちは、予想外

と思われるほどに、東京は魅力に乏しいと答えている。遠くから見ると東京であっても、東京の中では、渋谷や新宿といった盛り場があり、それと比べると、自分のいる所は魅力

に乏しいというのであろう。それと比べると、岡山や静岡は、その地域の中心なので充足感を抱ける。そうした開きを図14のプロフィールから感じる。

図12 どこで買う(借りる)か

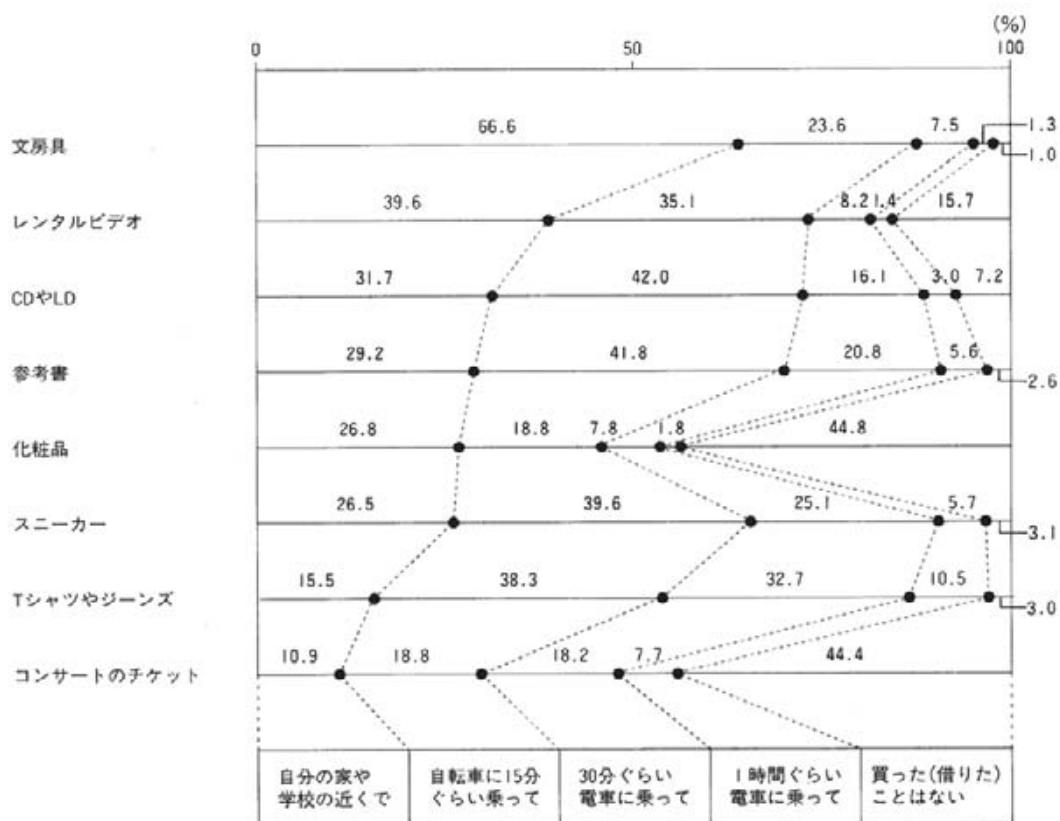


図13 地域にあるもの

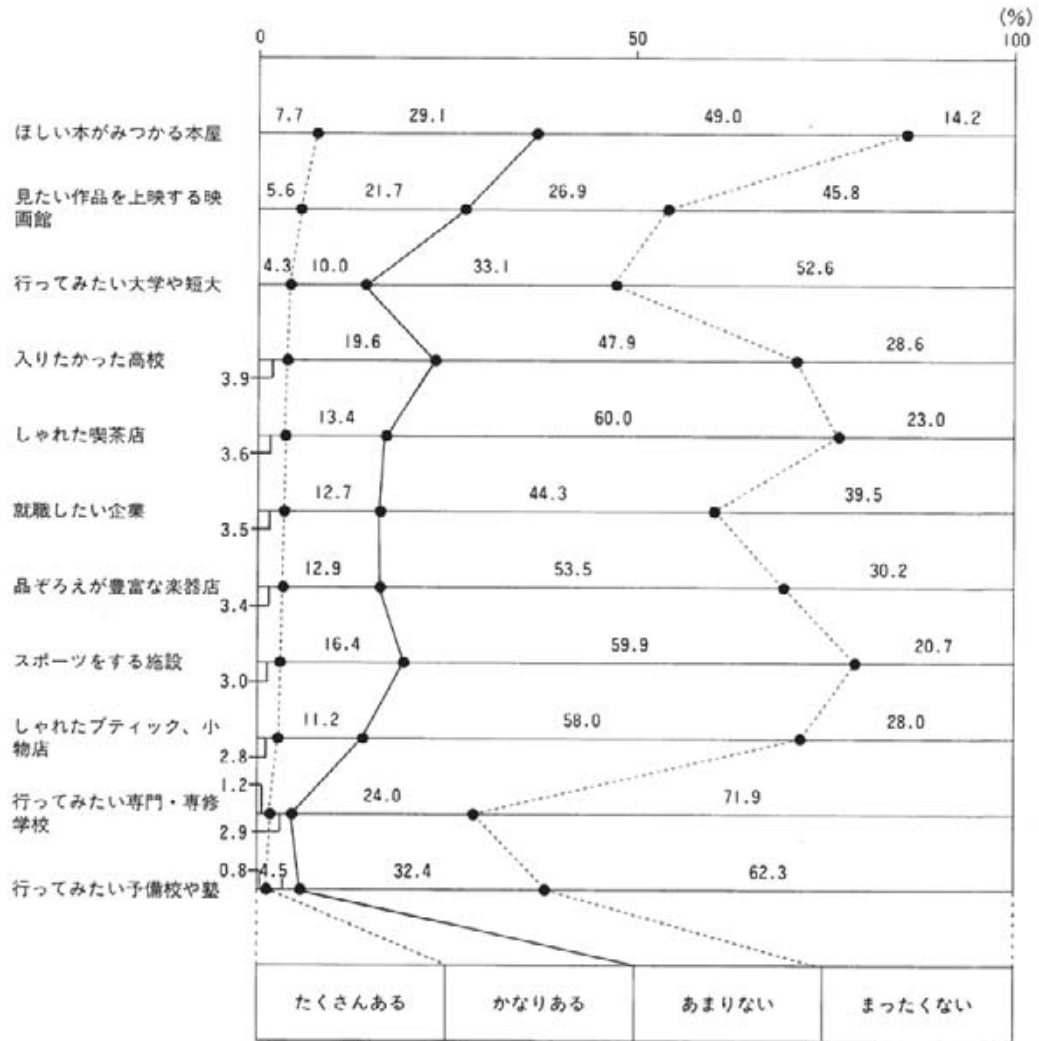
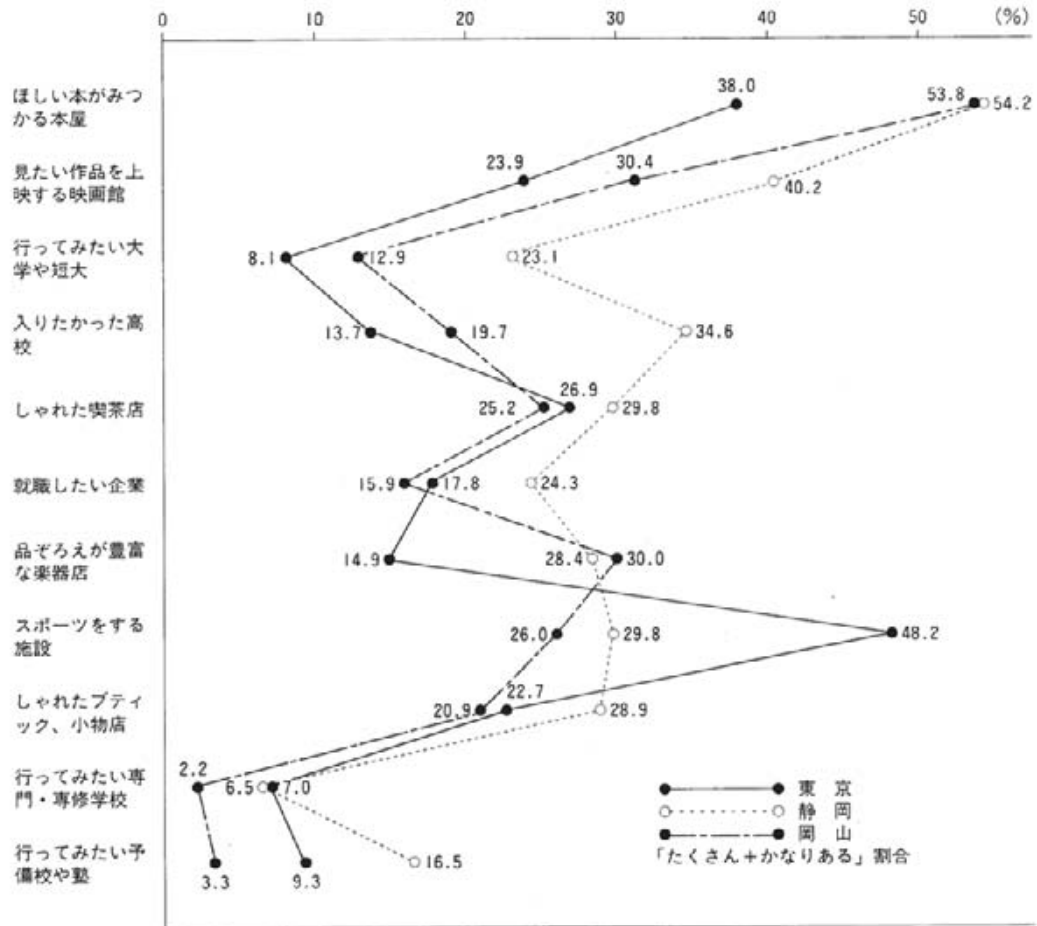


図14 地域にあるもの×地域

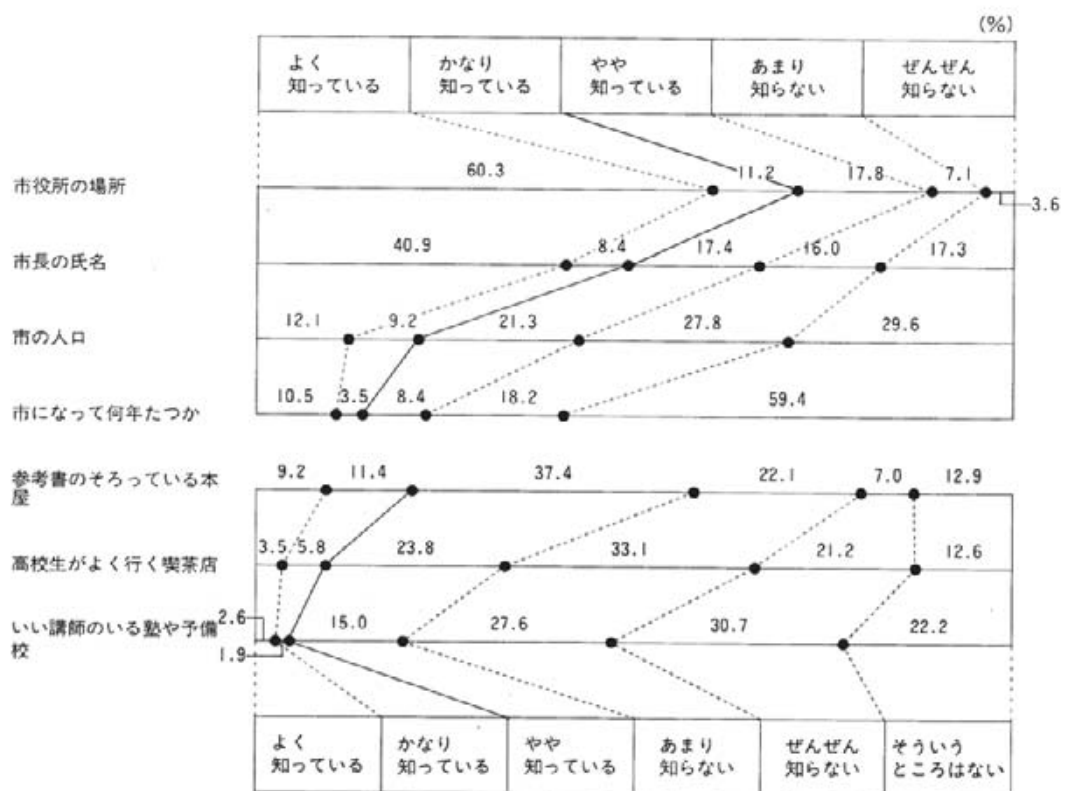


2. 地域のイメージ

それでは、地域についての生徒たちのイメージをもう少し追いかけてみよう。地域について知っていることは、図15のように、市役所の場所ぐらいだという。そして、それ以外のことをほとんど知らない生徒が多い。

したがって、地域について生徒たちはそれほど関心をもっていないように見えるが、それでは、地域についてどんな感じをもっているのか。図16に示したような10項目について、どう思うかとたずねてみた。

図15 地域でよく知っていること



- かなりそう思う { 自然に恵まれている
住み心地がよい
- あまりそう思わない { 刺激に富んでいる
金持ちの人が多い
教育水準が高い

全体としてみると、まあまあ住み心地がよく、自然に恵まれているのがそれぞれの地域だが、もう少しこまかく、地域ごとの特性を調べてみると、以下のようになる(表17)。

岡山：歴史的な伝統があり、文化的な感じのする町

富山：自然に恵まれ、おいしい食べものが多く、教育水準が高い町

静岡：住み心地がよく、心の温かい人が多い町

徳島：自然に恵まれ、心の温かい人がわりと多い町

東京：自然に恵まれているとはいえないが、刺激に富んでいる町

こう見てくると、それぞれの町の雰囲気伝わってくる感じで、生徒たちがかなり正確に地域をとらえているのがわかる。

図16 地域はどんな感じ

—自然に恵まれ、住み心地がよい—

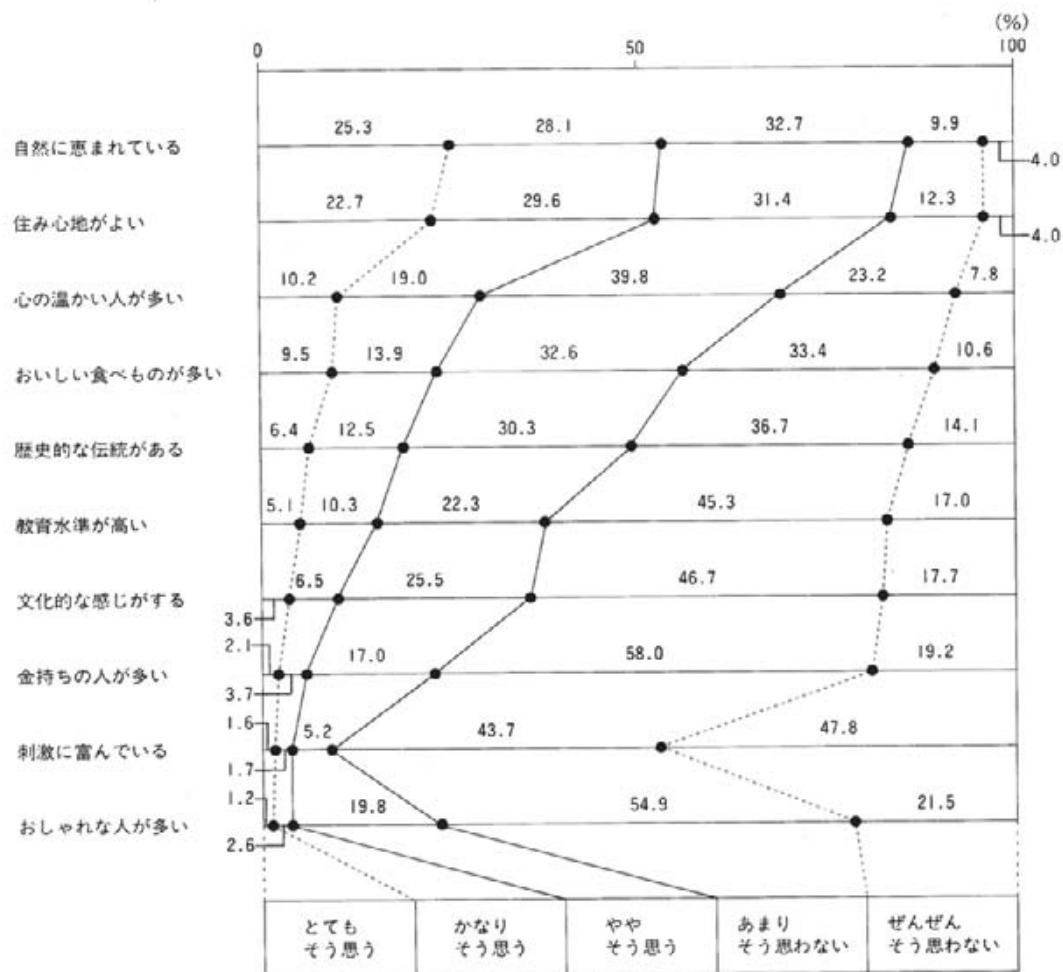


表17 地域はどんな感じ×地域

— 自然に恵まれ、住み心地がよい —

(%)

	東京	静岡	富山	岡山	徳島
自然に恵まれている	<u>7.6</u>	44.4	72.6	57.9	58.0
住み心地がよい	<u>41.3</u>	68.7	61.8	60.8	44.1
心の温かい人が多い	<u>19.0</u>	35.2	34.0	28.8	26.5
おいしい食べものが多い	<u>12.4</u>	28.1	56.9	28.9	15.9
歴史的な伝統がある	20.6	22.1	11.7	30.8	<u>7.9</u>
教育水準が高い	16.2	<u>4.7</u>	52.9	27.5	18.6
文化的な感じがする	16.2	6.4	10.3	20.2	<u>2.3</u>
金持ちの人が多い	9.7	6.7	8.3	10.3	<u>2.3</u>
刺激に富んでいる	14.1	2.0	2.0	4.4	<u>0.6</u>
おしゃれな人が多い	6.5	2.8	<u>2.0</u>	6.8	2.3

「とても+かなりそう思う」割合
 ○は最大値 —は最小値

3. 地域への愛着

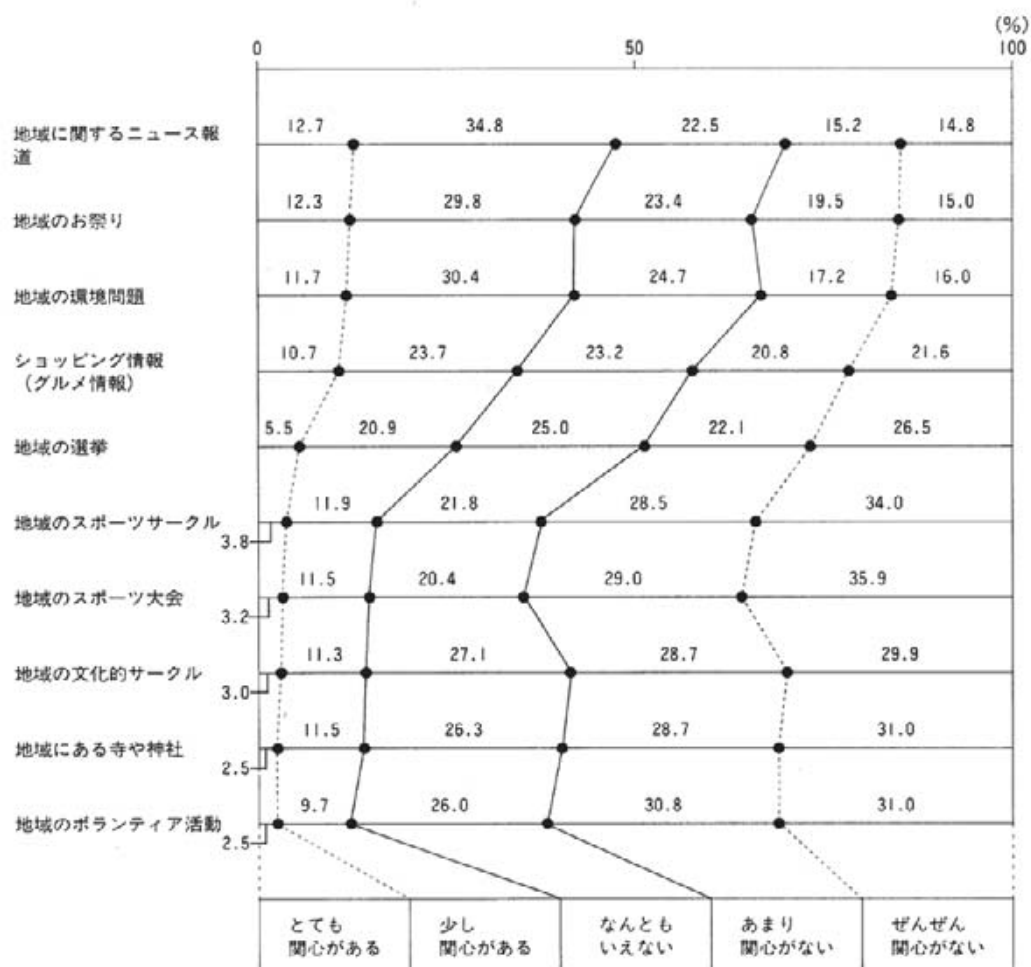
地域には、そこに住んでいるうちにそれなりに愛着をもつのが当然であろう。そこで、地域についてどれくらい関心があるのかをたずねると、図17のようになる。図の中の10項目で、生徒たちがもっとも関心がある「地域に関するニュース報道」でも、「とても関心がある」が12.7%、これに「少し関心がある」の34.8%を含めて、47.5%と半数を下まわっている。その他の項目にしても、生徒たちは、地域の

ことについて、それほど関心を寄せていないように見える。そして図18から明らかなように、地域への関心の低さは、どの地域にも共通している。

図17は、地域への関心の有無をたずねたものだったが、そこで、もう少しふみこんで、地域への愛着度を質問してみよう。

図19にその結果を示したが、「地元出身のスポーツ選手がいたら応援したくなる」や「地域

図17 地域への関心



の悪口を言われるとムッとする」など、それなりに地域へ愛着心を抱いているのがわかる。

もともと、地域への愛着は当然、地域によって、気持ちの持ち方がことなっており（表18）。

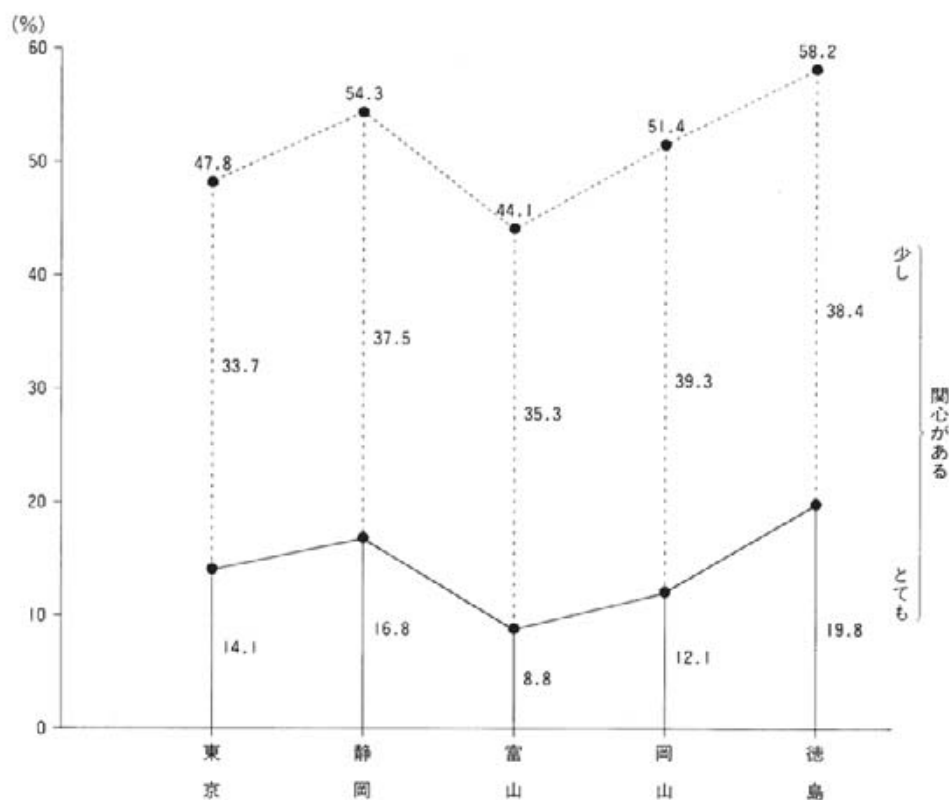
徳島：地元出身の選手を応援したくなる

し、地域の悪口を言われるとムッとする

富山：地域に好きな食べものがあるし、地域の人とは生涯つきあっていきたい

静岡：地元出身のタレントを応援する気になれない

図18 地域のニュースへの関心×地域



岡山：地元出身のスポーツマンを応援する気になれない
 東京：地域の悪口を言われてもムツとしないし、地域から有名人が出ればよいとも思わない
 もっとも、東京の生徒は町に自信があるか

ら悪口を言われても平気なのであろうし、岡山はスポーツ選手が多いから、あらためて応援する気になれないのかもしれない。したがって、地域への愛着についての解釈のしかたはむずかしいが、地元意識は地域についての誇りと関連しているように思われる。

図19 地域への愛着

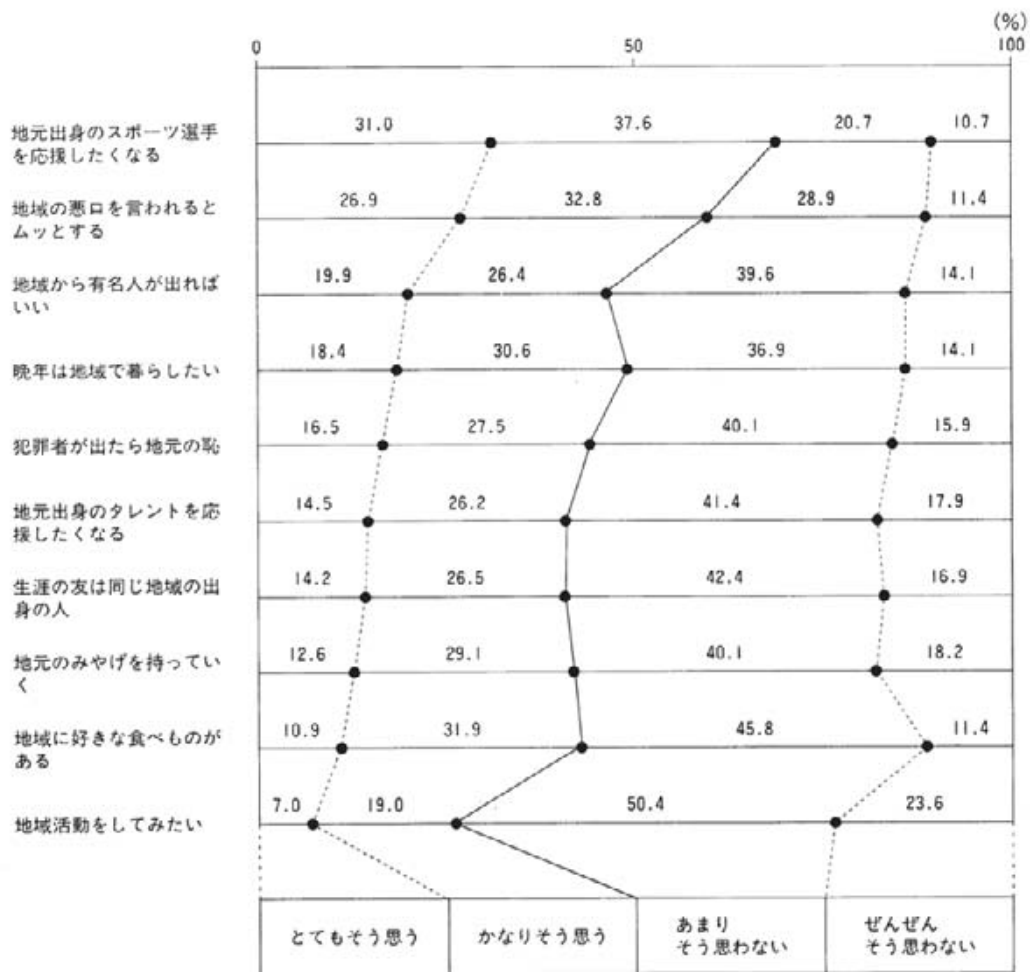



表18 地域への愛着×地域

(%)

	東京	静岡	富山	岡山	徳島
地元出身のスポーツ選手を応援したくなる	27.6	31.1	27.9	<u>24.8</u>	44.6
地域の悪口を言われるとムッとする	<u>22.7</u>	26.1	28.4	23.1	34.5
地域から有名人が出ればいい	<u>11.9</u>	19.6	15.9	19.1	26.0
晩年は地域で暮らしたい	<u>10.3</u>	17.1	17.6	20.8	21.5
犯罪者が出たら地元の恥	14.1	<u>13.4</u>	13.7	15.0	16.9
地元出身のタレントを応援したくなる	12.4	<u>10.1</u>	14.7	13.6	22.0
生涯の友は同じ地域出身の人	<u>8.6</u>	12.1	14.7	13.6	13.0
地元のみやげを持っていく	<u>6.5</u>	15.4	13.7	10.5	16.9
地域に好きな食べものがある	12.4	12.6	18.1	12.9	<u>5.1</u>
地域活動をしてみたい	6.5	<u>3.6</u>	4.9	6.8	10.2

「とてもそう思う」割合
 は最大値 は最小値

4. 大学のイメージ

高校生たちにとって、もっとも関心のあるのが大学であろう。そこで、まず大都市にある大学のイメージをたずねると、図20のようになる。

大都市の大学	イメージ	割合 (%)
大都市の大学	1. 難易度が高い	82.9
	2. バイトがしやすい	82.1
	3. 学生生活をエンジョイできる	70.7

(とても+まあ多い割合)

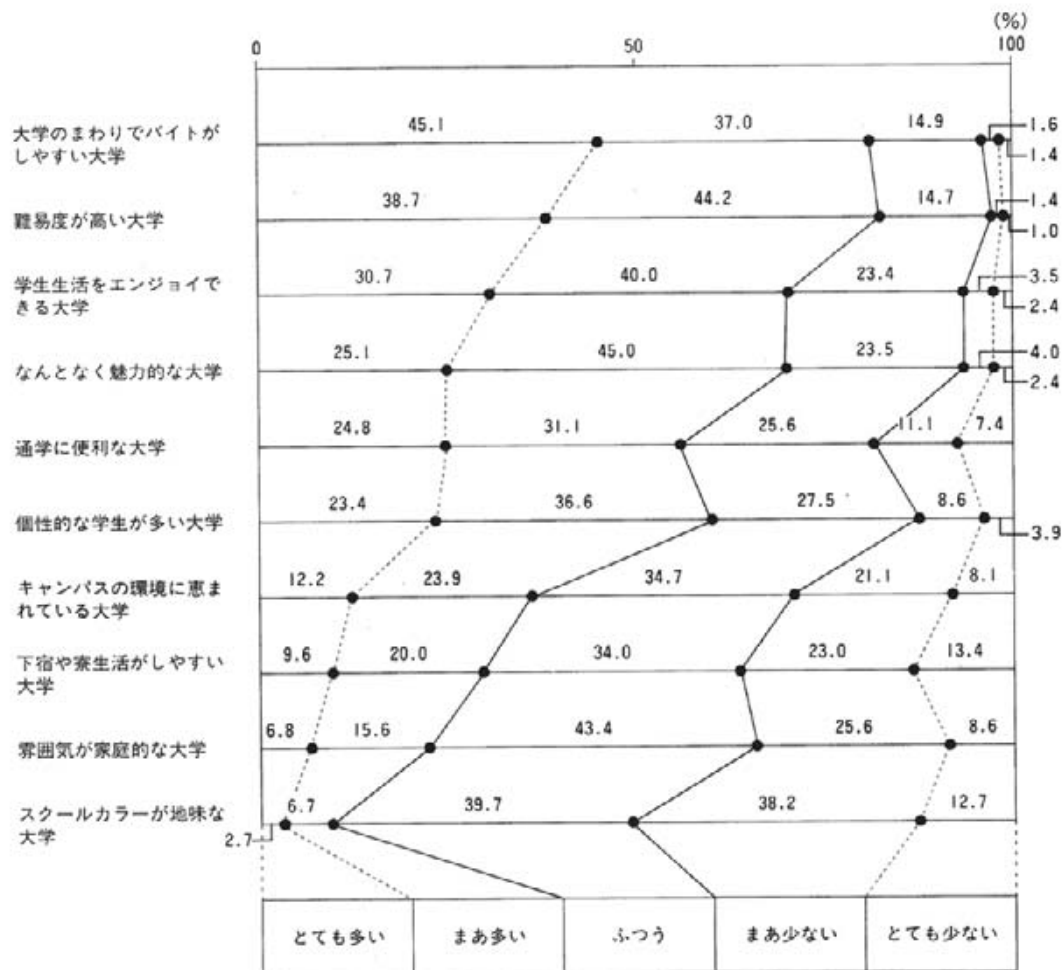
それに対し、大都市以外の大学のイメージは図21のとおりで、ここでもイメージのベスト3をリストアップしてみたい。

大都市以外の大学	イメージ	割合 (%)
大都市以外の大学	1. 環境に恵まれている	57.6
	2. 雰囲気家庭的	52.3
	3. スクールカラー地味	41.1

(とても+まあ多い割合)

そこで、大都市と大都市以外の大学のイメ

図20 大都市の大学 (イメージ)

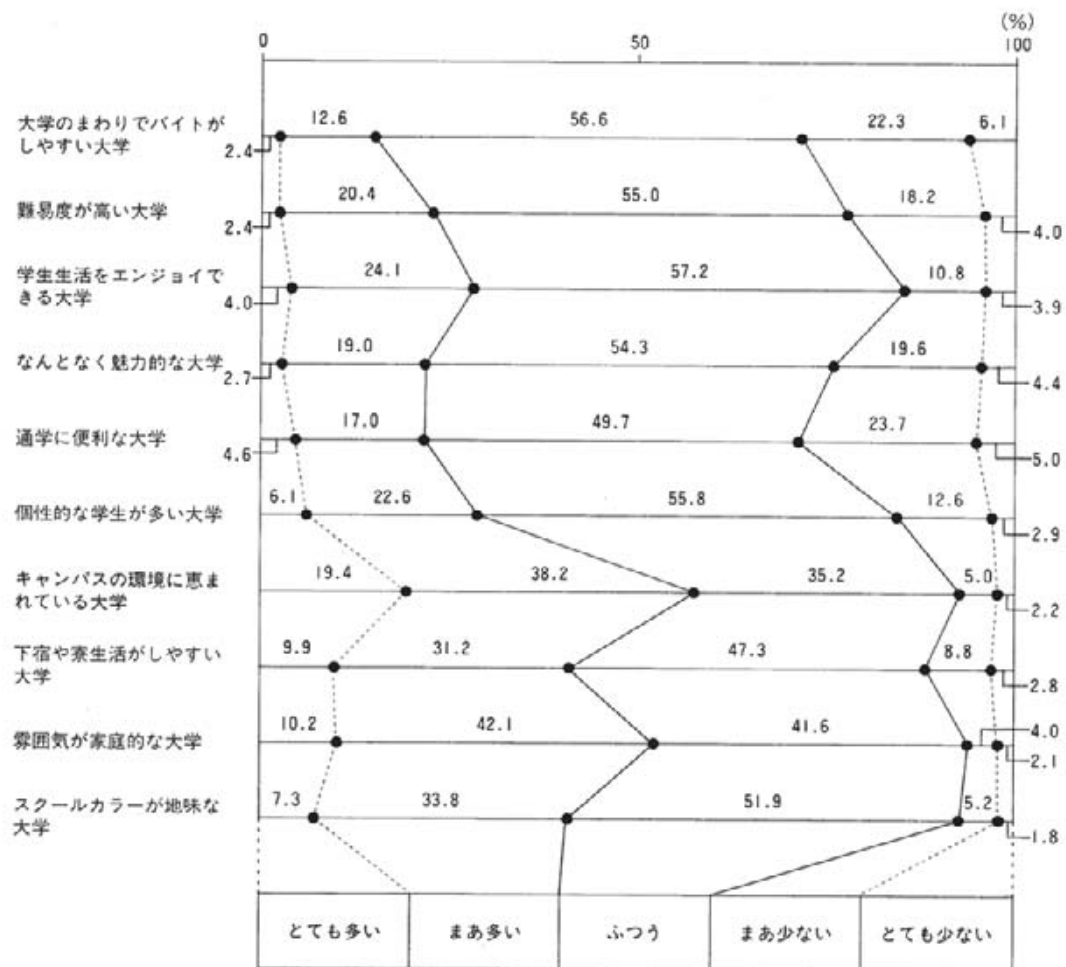


ーを対比させて示すと、図22のようなシャープなコントラストを示す。大都市の大学はバイトがしやすく、学生生活をエンジョイできそうで、なんとなく魅力的だ。大都市の大

学にそういうイメージが抱けるから、高校生たちが大都市に殺到するのであろうか。

しかし、表19によると、大都市の大学に対し、もっとも高いイメージを抱いているのが

図21 大都市以外の大学 (イメージ)



徳島、ついで岡山、富山で、東京の生徒たちはそれほど高い評価を与えていない。東京に住んでいると、東京の大学がそれほどよいと思えないから、こうした傾向が得られるのが

むしろ当然であろう。

大都市のよさは、遠くにおいて思うものなのかもしれないが、大都市にある大学のイメージが現代風で明るいのが印象に残っている。

図22 大都市の大学と大都市以外の大学（イメージ）

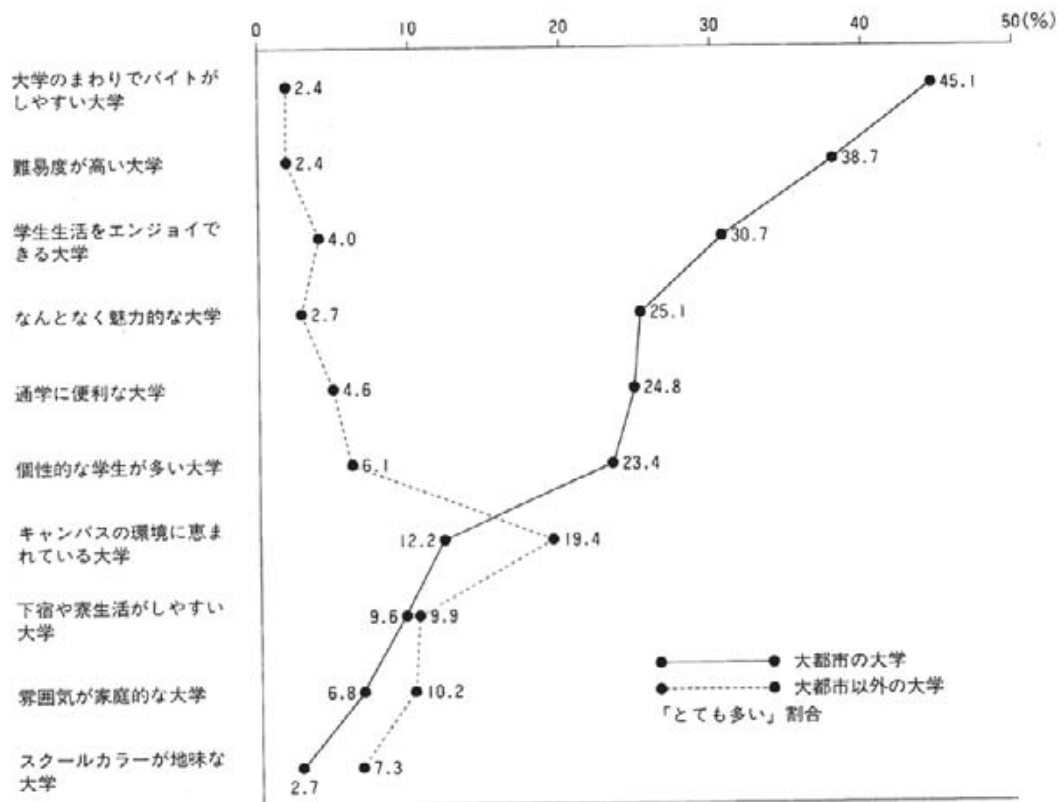


表19 大都市の大学（イメージ）×地域

(%)

	東京	静岡	富山	岡山	徳島
大学のまわりでバイトがしやすい大学	41.8	41.5	45.1	45.8	58.2
難易度が高い大学	43.2	44.8	36.3	41.8	35.6
学生生活をエンジョイできる大学	27.0	28.3	32.6	35.6	38.4
なんとなく魅力的な大学	23.2	25.2	27.0	30.0	36.2
通学に便利な大学	41.3	20.7	25.0	23.6	28.8
個性的な学生が多い大学	18.9	21.1	32.8	23.2	31.1
キャンパスの環境に恵まれている大学	4.3	11.3	12.7	13.3	14.7
下宿や寮生活がしやすい大学	7.6	6.2	8.9	12.1	12.4
雰囲気が家庭的な大学	8.6	5.6	6.9	7.5	3.4
スクールカラーが地味な大学	2.2	2.0	0.5	4.2	1.1

「とても多い」割合
○は最大値 —は最小値

5. 行ってみたい都市

もう少し具体的に、どの都市の大学へ進みたいのかをたずねてみた。全体としての傾向は図23のとおりで、京都、東京、神戸が進みたい都市のベスト3となる。そして、就職したい都市は、大学の場合に比べ、あまりこだわりのない(図24)。というより、どこに勤めるかなどを、今から考えてもしかたがないと思っているのかもしれない。

そこで、それぞれの地域ごとに、大学と就職で、どの都市で生活したいかをまとめてみると、表20となる。東京の生徒は、当然のことながら東京での生活を望んでいるが、その他の都市の生徒は、思っているほどに東京にあこがれていないように見える。また住んでみたい地域についての結果は、図25にくわしい。

図23 進みたい大学の地域

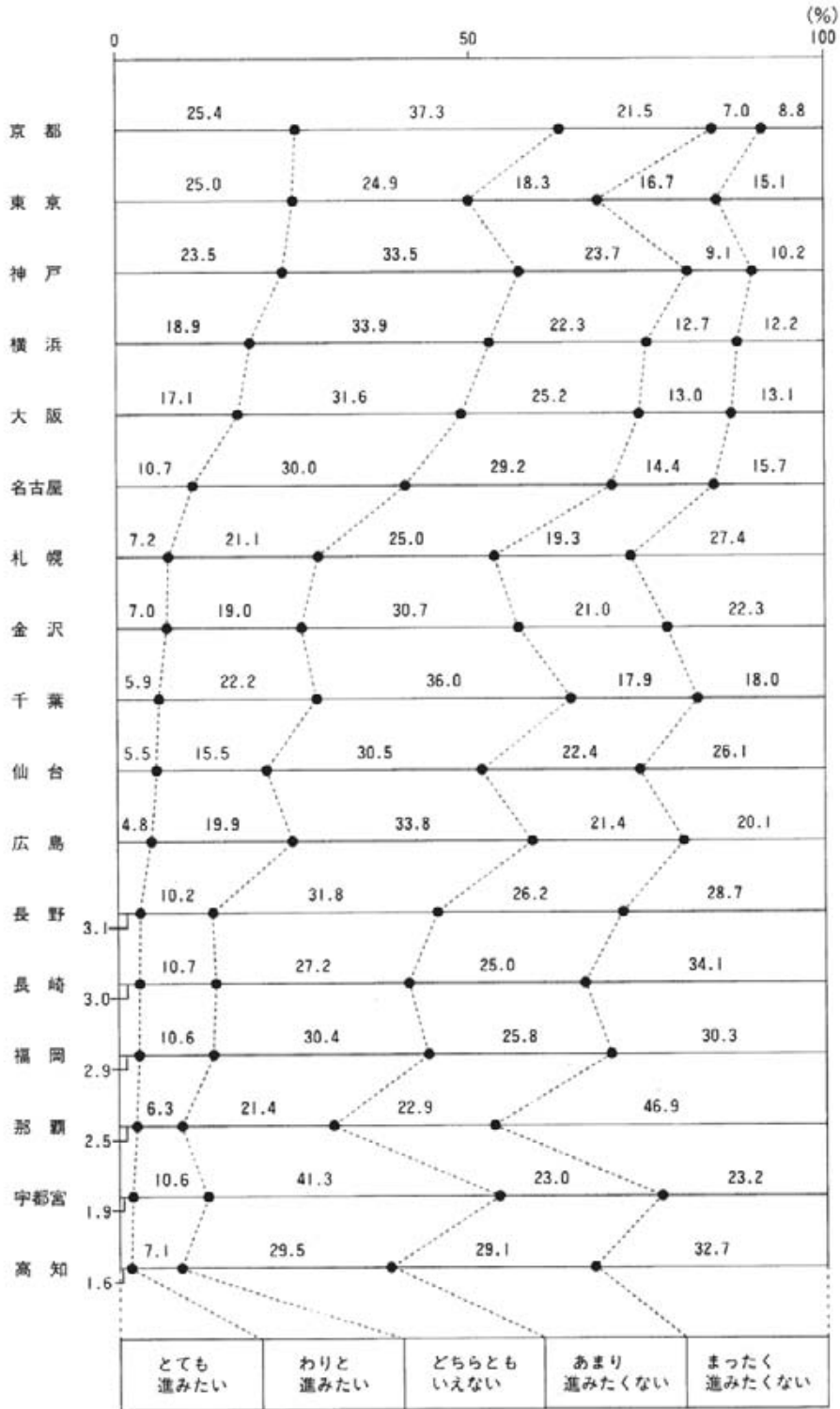
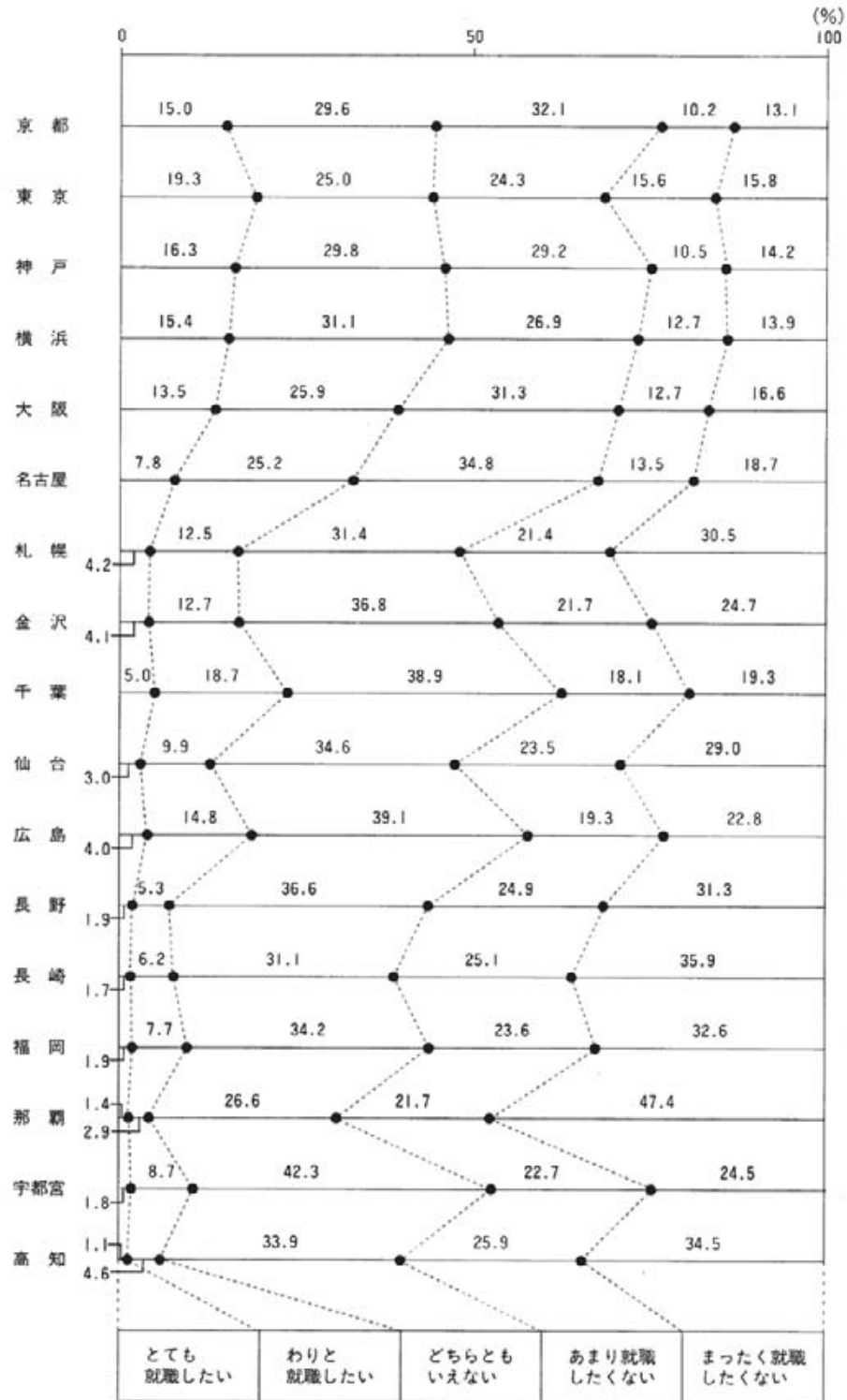


図24 就職したい地域



ここで、あらためてそれぞれの地域の生徒が、大学進学にあたって入ってみたい大学の都市名をあげると、以下のようになる。

	1位	2位	3位
・東京	東京 (73.8%)	横浜 (27.9%)	京都 (16.3%)
・静岡	東京 (29.1%)	横浜 (24.4%)	京都 (21.6%)
・富山	東京 (32.4%)	京都 (24.0%)	横浜 (23.0%)

・岡山	神戸 (34.9%)	京都 (34.5%)	大阪 (25.3%)
・徳島	神戸 (46.7%)	京都 (37.3%)	大阪 (36.7%)

できることなら地元の大学で地味な生活を送るより、東京か京阪の大学へ入り、学生生活をエンジョイしたいのが高校生たちのねがいなのであろう。

表20 東京へのあこがれ×地域

(%)

		東京	静岡	富山	岡山	徳島
大学	東京	73.8	29.1	32.4	18.3	14.1
	京都	16.3	21.6	24.0	34.5	37.3
	大阪	9.3	9.9	12.3	25.3	36.7
就職	東京	71.3	20.5	19.7	18.0	10.7
	京都	6.6	9.0	10.3	23.1	23.2
	大阪	7.7	7.9	7.6	21.9	26.6



「とても+わりと」の割合
 は最大値  は最小値

図25 住んでみたい地域

